

第131回 令和7年11月26日（水）

「あやまるということについて。」

「通過」とか「過去」ということばがありますが、「過」と言う文字には「過ぎ去る（すぎさる）」という意味があります。また「過失」で使われるときは「過ち（あやまち）」という意味もあります。昔は「あやまつ」のように使用していたようですが、失敗することを表現しています。

同じ「あやまち」を語源として後に「誤る」という言葉ができたそうです。こちらは「正誤」に表されるように、「正しい」とセットで「正しくない」というニュアンスが強くなります。「誤報」とか「誤誘導」となると他人を誤った方向に導くという悪意も含まれます。

さらに「謝る」という言葉も同じ語源だそうです。謝には「的を射る」という意味があり言葉で対象となる人に対して許しを請う、または感謝のように礼を述べるなど、より具体性が出てきます。「謝罪」は「罪を謝る」ことで、罪を認めて許しを請うことになります。

ここでちょっと思うのは、いまは有名人が何かをするとすぐに「謝罪しろ」と炎上します。さて「対象となる人に許しを請う」ことが謝罪だとすると、いったい誰に謝罪するのでしょうか。社会全般に謝罪することを意味するのであれば少し違和感があります。迷惑をかけた被害者に対して、そしてお世話になった方に対して謝罪をするのはわかりますが、記者会見で国民に謝罪する風潮と言うのはどうなのでしょう。

人生において失敗しない人間などいるはずがありません。「謝罪しろ」と発言している人も失敗はしているはずで、それでも社会全体に謝罪はしていないでしょうし、もしかしたら関係者への謝罪すらしていないかもしれません。

「公人」だから仕方ないという意見も目にしますが、政治家であろうが芸能人であろうが心の構造は同じですから誹謗中傷に傷つかないわけがありません。公人ではない人は謝罪したり罪を償ったりすれば社会復帰できるのに、公人は一度ついたレッテルはなかなかはがすことができません。

そもそもスタートは「あやまち＝過ち」で過ぎ去った失敗です。そして大半は正しいことの反対を意味する「誤り」ではないと思います。そもそも何が本当に正しいかなんてわかりません。

すぐに「謝れ」という社会は乾燥しているような気がします。謝罪をすれば水に流せるのかと言うと「罪を認めた」ことをスタートに新たな攻撃が始まります。

匿名のネット社会が地球全体を「過った方向」に導いているような気がして不安になります。